

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習

—「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる—

第5学年国語科学習指導案

単元名 教えてあげる！わたしの「^お推し」※
～生活をふり返って好きなことや得意なことについてしょうかいする文章を書く～

※「^お推し」…他の人に薦めたいくらい気に入っている人やもの、こと

日 時：令和5年9月21日(木)5校時
児 童：葛飾区立南綾瀬小学校 第5学年1組 41名
指導者：葛飾区立南綾瀬小学校 主任教諭 椎名 景子

1 単元の目標

- 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで文章を書き、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○題材について集めた情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解している。 (2) イ	○テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にしている。B (1) ア	○自らの学習課題を設定し、見通しをもって粘り強く、友達に自分が紹介したい題材について説明する文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

4月の段階で、段落の書き始めや会話文の書き方など、書くことにおける既習事項が身に付いていない児童が散見された。また、学級全体として、文章を書くことに対して苦手意識をもっており、「書くこと」に対する意欲はあまり高くはないと感じた。そこで、連絡帳での一行日記や、毎週の課題としての「200字テーマ作文」の取り組みを継続している。夏休みを迎えるころには、書き始めのスピードが速くなったり、「始め・中・終わり」の構成を意識して書いたりする児童がだんだんと増えてきた。

第5学年4月の「事実と考えを区別しよう」では、事実と考えを区別して整理した文章を書く学習を行っている。また、6月の「環境問題について報告しよう」では、本や資料から情報を集めたり、資料を使って説明したりすることを学習している。しかし、観点に沿って情報と情報を整理し、自分の伝えたいことと関連付けながら、必要な情報を選んだり組み合わせたりすることはまだ十分ではないと感じる。「読むこと」における説明的な文章の学習では、説明する文章の構成や主張と事例との関わりをもとに、筆者の意図を捉えることを重点的に学習した。これらの学習内容を生かして、伝えたいことに合わせて構成や事例の挙げ方を工夫したり、考えと事例の関係を吟味したりしながら書くことができるようにしたい。

授業において、各教科でICT機器を活用している。中学年からのタイピング練習の積み重ねがあり、どの児童もキーボードでの文章入力をスムーズに行うことができる。本単元では、最終的にはICT機器での入力で紹介する文章をまとめることとする。しかし、思考の段階（自己内対話、友達との交流など）においては、ICT機器の操作に集中しすぎてしまうことで学習の広がりや深まりを抑えてしまっていると感じるので、児童の実態に合わせた効果的な活用をしていきたいと考えている。

本校は単学級のため、1年生からずっと同じ仲間と学校生活を過ごしている。そのため、児童同士の結びつきが強く、何でも言い合える雰囲気がある。その反面、1年生でもった友達への理解が固定化される傾向がある。本単元で、それぞれの児童が、自分の好きなことや得意なこと、興味のあることについて文章にまとめることで、一人一人がそれぞれ違う見方や考え方をもっている互いのよさを感じながら、友達への理解がさらに深まることを期待したい。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、児童が日常生活において、好きなことや得意なこと、興味のあることが題材となる。題材設定の方法は、右記の2パターンある。

同じ学級の友達に向けて、「自分の好きなことや得意なこと、興味のあること」をテーマに文章を書き、説明する。その際、自分の経験や知識を広く深く探って題材を設定する。その題材に沿った情報を集め、集めた情報を分類したり関係付けたりしながら適した事柄を選んだりするを通して、伝えたいことを明確にしていくことが、考えの明確化につながると考える。

事例を挙げて意見を述べる文章を書く際に、特に考えさせていきたいことが大きく二つある。一つめは、本人が何気なく認識していることや感じていることを想起し、そこから考えたことを自分の意見として文章化することである。二つめは、読み手に伝わる情報や言葉を用いて書こうとする意識である。書いた本人だけが納得している自分本位な意見や事例ではなく、交流や共有で文章を読んだ友達から、「うん、分かるよ。」「なるほどね。」「そういった考え方は初めてだ。試してみようかな。」などの反応を得ながら、読み手の心へ働きかけるような事例を用いるよさや、意識の大切さに気付かせていきたい。

児童がこの二点を意識して自分の考えを書き進めるにあたって、誰かに意見を聞いて確かめてみたくなったり、情報の取捨選択や構成、表現に迷ったりすることが予想される。そこで、児童が意欲をもち、かつ安心して書き進められるように、グループでの交流や自由なインタビューなど、対話を取り入れながら協働的に書く活動を設定する。対話的活動を通して、自分だけでは考えつかなかった多様な考えに触れることができ、自分の考えが広がったり深まったりすることが期待される。また、必要に応じて書くことの過程を往還できるように、各自が学習計画に照らし合わせながら進捗を確かめてゴールへ向かうことができるようにする。児童は学びの見通しをもち、振り返りの中で自らの学びを調整することで、学習課題の達成に向けて主体的な学びの姿が見られると期待される。

以上のことから、テーマや題材に沿った情報を収集・整理しながら、読み手である学級の友達へ伝えるように対話を通して確かめながら意見や事実についての説明を書く本学習材は、児童の実態を生かし、主体的に課題解決を図るに適したものと考える。

「題材設定の方法」

- ① 自分から読み手へ伝えたいと思いついたもの【自分発信】
- ② 学級内で共有したものから選択したもの【選択】

(3) 単元について（単元観）

本分科会では、本単元の学びを大きく2側面から捉えている。

1つめの、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の側面については、学習材観で述べたように、考えを明確化するために、自分の経験や知識を広く深く探って題材を設定することや、その題材に沿った情報を集めたり、適した情報を整理しながら適した事柄を選んだりするよさを理解しながら用いることである。

2つめの、「学びに向かう力・人間性」の側面については、学習を振り返る中で自己の学習課題についての達成状況を把握し、達成状況に応じて学びを修正する、自らの学びを調整することである。

〈0次での題材の耕し〉

本単元では、「自分の好きなことや得意なこと、興味のあること」について紹介する文章を書き、友達に説明するという言語活動を行う。学習を進める前の0次において、自分の生活を振り返り、題材となる「好きなことや得意なこと、興味のあること」について想起させ、それらを学級全体で共有する。また、個人として知りたいこと（興味のあることや教えてもらいたいこと）を学級全体で共有することで、多様な題材があることに気付かせたい。自分では発想・着想が難しい児童も「友達の希望に応えたい。」「これなら、伝えたいことがある。」という思いが生じ、書くことへの意欲や必然性が促されると考える。また、教えてもらいたいとリクエストされたものの中から題材を選んだり、自分が伝えたい題材を選んだりすることで、相手・目的意識がより明確になることもねらう。

〈柔軟な学習過程と自己調整〉

児童は、これまで学んできた書くことについての知識や技能を振り返り、改めてできるようになりたいことやさらに伸ばしたいことを今回の学習課題としている。個別の学習課題を設定することで、学習活動も自分で確認・選択しながら展開していくこととなる。必要に応じて、書くことの過程を行き来できるよう柔軟に捉えて学習の自己調整をしながら学習を進める。そこで、「**学習振り返りシート**」を活用し、毎時間の学びや学び方を振り返ったり、単元の終わりに全体を振り返ったりする自己評価に取り組みさせる。こうした経験は、児童の主体性を促し、各自の資質・能力に合わせた個別最適な学びの在り方を実感することができ、今後の学び方を考える材料になっていくものと期待する。

〈協働的な学びの展開〉

異なる考え方に触れ、それらの考え方を組み合わせるよりよい学びを生み出していくことができるように、学習場面や児童の必要に応じて、友達との対話を意図的に取り入れた「協働的な書くことの活動」を展開していく。教材観でも述べたように、様々な対話を通して書きたいことの中心を明確にしていくことは、自分の内面を深く見つめたり、相手のものの見方や考え方に積極的に触れたりする機会ともなると考えた。

〈思考の道具としてのICTの活用〉

ICT（一人一台タブレット端末）を活用していく。本単元では文章をまとめる記述、推敲の段階で、タブレット端末を用いる。好きなものや得意なもの、興味のあることを紹介する文章をまとめる際には、文章入力だけでなく、「**推し**」の対象を画像として撮り、紹介する文章と共に載せることで、相手により分かりやすく伝えることができることもICTのよさであると考えた。

以上のように、自己の学習について自己調整を行い、他児童との対話を通して考えながら、自分に合った思考ツールを用いて学習の個別最適化を図る。こうした、課題解決への道筋や手助けになりそうなものを自分で探り、手に入れながら歩くことのよさを感じる経験は、多くの情報から取捨選択をしつつ直面する状況へ柔軟に対応する、これからの学びや生活へ繋がるものになるとの考えから、本単元を設定した。

4 書くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

書くこと部では、「書くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を、単元における言語活動を通して、課題を解決する際に育む言葉への自覚であると捉えた。

その上で、書くことにおける「言葉による見方」とは、書きたいことを表現するために、語彙や文・文章、段落、文章全体に着目することと定義した。また、「言葉による考え方」とは、情報を整理する際の概念としての考え方（比較・類推・因果・分類／分解・抽象化・具体化・系統化・一般化）であると捉えた。さらに、書きたいことを見付けたり、書く対象を見つめ、表現したりすることとして、発想や着想を得ること、さらにそこから構想を練ることであると定義した。

書く活動においては、この「言葉による見方」と「言葉による考え方」とを行き来しながら、単元の目標を達成することを目指している。この行き来には、例えるならば「選択」「運用」「検討」「想像」等のような言語操

作の場面が想定される。「選択」とは、どのような言葉を使うかを児童自身が吟味し、選ぶこと、「運用」とは、その言葉のもつ意味を確かめ、実際に使ってみること、「検討」とは、文脈において適切か考えたり、どのような意図でその言葉を使ったのかを推し量ったりすること、「想像」とは、その言葉を使ったときに読み手がどのような印象をもつかを考えること、である。

これらを複合的に体験することで、豊かな言語感覚を育成することが可能となると考える。豊かな言語感覚とは、言語で理解したり表現したりする際の正誤・適否・美醜・ニュアンスなどについての感覚のことである。

以上を踏まえ、獲得した言葉の力を単元内に留めることなく、教科横断的な視座で活用したり、自らの生活に活用したりする場をもったりすることで、児童一人一人の言語能力を向上させることができると考えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が(本単元において)身に付けさせたい力を自覚し、主体的に学習に取り組む。

本単元では、目的や意図に応じて題材を選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして考えを明確にしていくことと、物の見方・考え方意識的にとらえていく姿が見られることを目指す。そのために、長期の0次として、毎週様々なテーマで作文を書き、自分を見つめ直している。また、短期の0次として、自分の好きなことや得意なこと、興味のあることなどを想起する時間を設ける。さらに、実の場においても、書いたものを他校の5年生と交換し読み合うというゴールを示すことで、相手意識や目的意識をもって書くことにつながると考える。書きあがったものを実際にクラスの友達や他校の同級生に読んでもらうことで、充足感を得られると同時にいろいろな書き方に触れる機会にもなり、次も書いてみようという意欲につながることを期待できる。

(2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

○学習振り返りシートの活用

単元のゴールとゴールに向けて本時ですべきことを説明できるように毎時間確認をしている。さらに、振り返りシートに書く活動の流れを載せることで、自分が現在どの位置にいるかを見通せるようにし、学習の見通しをもちやすくさせる。学習の振り返りでは、課題の解決状況と課題解決に向けて有効であった学び方について振り返ることで次時の学習のめあてにつなげるようにしていく。

○柔軟な学習過程

必要に応じて書くことの学習過程を往還できるように、各自が学習計画に照らし合わせながら進捗を確かめてゴールへ向かうことができるようにする。児童は学びの見通しをもち、振り返りの中で自らの学びを調整することで、学習課題の達成に向けて主体的な学びの姿が見られると期待される。

○多様な文例の提示

「自分が伝えたい事柄から題材を選んだもの」「友達が興味をもっていることから題材を選んだもの」「資料を活用したもの」「経験などの事例を挙げたもの」など、複数提示し、児童が自分に合ったものを選ぶことができるようにする。第1時で文例を提示するが、必要に応じて様々な文例を参考にできるよう、学習場面に即して適宜提示していく。

○自己内対話と他者対話

自分の好きなものや得意なこと、興味のあることを紹介する文章を書く際には、ただ対象のもの(こと)を説明するだけでなく、その対象の何が(どういうところが)「推し」であると伝えたいのか、その理由を考えさせることで、物の見方や考え方が深まることが期待される。その理由を「始め」で書くようにすることで、「中」で書く小見出しや事例の内容に深まりが出ると考える。

また、書いた本人だけが納得しているような自分本位な意見や事例ではなく、読み手の心に働きかけるものとさせたい。そこで、随所にグループでの交流や自由なインタビューなど、児童同士の対話を取り入れながら協働的に書く活動を設定する。ペアやグループによる対話を通して進めることで、書き手の立場からだけでは気付けないものの見方や考え方、語彙、発想などに触れたり、共感を得て安心したりすることが予想される。これらを書く意欲につなげたい。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

○実の場

前述の通り、学級内で友達と読み合うだけでなく、実の場において、書いたものを他校の5年生と交換し読み合うというゴールを示すことで、相手意識や目的意識をもって書くことにつながると考える。書きあがったものを実際にクラスの友達や他校の同級生に読んでもらうことで、充足感を得られると同時にいろいろな書き方に触れる機会にもなり、次も書いてみようという意欲につながることを期待できる。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
0		<ul style="list-style-type: none"> 書く活動として、毎週、200字テーマ作文を書く。 自分の好きなことや得意なこと、興味のあることを想起する。 学活や道徳を通して、自分の好きなことやよさ、友達のよさに気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「始め」「中」「終わり」を意識して書かせる。 ○学級全体で共有し、多様な題材に気付かせる。
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ 文例を読む 学習計画を立てる (個別の学習計画) 課題設定 	<ul style="list-style-type: none"> 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を使うことができる。[知識及び技能](2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性をもって学習できるよう興味をもたせる。 ○2つの文例を比較させ、共通しているところを見つけさせることで、必要な要素を考えさせる。 ○単元の終末(ゴール)の見通しをもたせる。 ○書く活動の得意要素や苦手要素を考慮し、自分で必要なところを見つけられるよう支援する。 ○自分の頑張るところ(課題)を、自分で考えさせる。 ◆ [態度①]★発言、ワークシート、学習振り返りシート
2	3 4 (本時) 5	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集を行う。 (題材に沿った情報を集めるため、経験を振り返ったり、インタビューをしたりする期間を1週間程度設ける。) 内容の検討を行う。 構成の検討 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力等]B(1)ア 題材について集めた情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を使うことができる。[知識及び技能](2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的に書ける課題設定を考えさせる。その際、自分が書きたい課題にすることを促す。 ◆ [思・判・表①]★学習振り返りシート、情報収集シート、構成シート、観察 ◆ [知識・技能①]★学習振り返りシート、情報収集シート、構成シート、観察 ◆ [態度①]★学習振り返りシート、情報収集シート、構成シート、観察

6 7	<p>・記述・推敲を行う。</p> <div data-bbox="363 226 716 389" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個別の学習課題に沿った過程で、個々に学習を進める。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ○構成の基本を提示し、児童が工夫をしやすい素地とする。 ○資料(図や表、イラストなど)を入れるか考えさせる。 ○自分の課題を説明する際に、資料を入れられるか、より分かりやすくなるかを考慮させる。 ○「始め」「中」「終わり」を意識して記述させる。 ○「始め」には、課題設定が分かる記述。 「中」では、小見出しと内容が一致していること。 「終わり」は読者を意識した記述になっているかを確認させる。 ○自己推敲や他児童との交流を通し、考えを整理させる。 ○友達の文章が、課題(テーマ)からずれていないかを確認させる。 ○批判するのではなく、アドバイスを行わせる。 ○資料と文章が、ずれの無いように気を付させ、記述させる。 ○ICT 機器を使って入力する際、誤字が無いよう留意させる。 ○入力時間の個人差が生じることに配慮する。 ◆【態度①】★学習振り返りシート、構成シート、記述原稿(ICT)、観察
3	<p>8</p> <p>・完成した作品を友達と共有する。 【実の場】 ・他校の同級生に伝える。 (お互いの作品を読み合う。)</p>	/	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよいところを見つけて、よさを伝えたり記録したりさせる。

7 本時の学習（4時間目/全8時間）

(1) 本時のねらい

- ・目的や意図に応じて情報を整理・分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。(B(1)ア)

(2) 本時の展開

学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法 ○指導上の留意点
1 前時までの学習を振り返り、単元のゴールと本時のめあてを確認する。		○振り返りチェックシートと情報収集シートを基に、本時の見通しをもたせる。 ○前時の振り返りの時にもった本時の自分のめあてを確認させる。
〈単元の学習課題〉 目的や意図に合わせて情報を集め、整理・分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。	自分のめあて	○教師が情報収集シートの付箋を操作しながらモデルを示す。その際、伝えたいこと（主張）と目的意識、小見出しと具体的な理由・根拠に着目できるように示す。 ○本時は選材の学習過程であるが、順番や優先順位を決めてもよいことを確認する。 ○見通しをもつことや学習方法の調整について考えられるように、個の学びと協働的な学び(グループでの活動)の時間配分は、各グループで決めさせる。 ○交流が単なる確認作業にならないようにするために、教師の交流モデル動画を視聴する。 ○交流前後で変容があった児童を紹介する。 ○全体で共有しやすいように、児童のワークシートを提示しながら紹介する。 ○自分のめあてとワークシートを照らし合わせながら本時の学習を振り返り、学習振り返りシートに記述させる。 ◆集めた情報を分類したり関係付けたりしながら、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ★ワークシート、振り返りの記述内容
2 情報の整理（選材）の方法を知る。 3 【個の学び】 情報収集シートの付箋を取捨選択しながら、伝えたいことに沿って情報を整理する。(選材)	・テーマに沿って感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら、紹介したいことについての事実や意見を明確にすることができる。[思考力、判断力、表現力等] B(1)ア	
4 【協働的な学び】 3～4人組で、助言や質問をしたり、目的に合っているか確かめたりする。 「これで伝わるかな。」「AとBのどちらがいいかな。」「これも入れたほうがいいかな。」「～についてアドバイスもらえるかな。」等	情報付箋の種類（色） ▷主張（ピンク）： 伝えたいこと（主張） ▷小見出し（黄色）： 伝えたいことの事例 ▷理由・根拠（水色）： 事実、経験、インタビュー、データ、気持ち等	
5 【個の学び】 友達との交流での気づきを個の学びに生かす。		
6 全体で共有する。		
7 本時の学習を振り返る。 学習振り返りシートに課題解決状況と工夫したことを記述し、次時のめあてをもつ。		

ゴール

お
推しの「

」について紹介する文章で、友達の生活を豊かにしよう。

共有

推敲

記述

構成

選材

取材

ゴールの設定
課題の設定

めあて

／		／		／		／		／		／	
	めあて		めあて		めあて		めあて		めあて		めあて

- ・経験したり感じたりしたことの中から、テーマを決めよう。(課題の設定)
- ・テーマに合うように情報を集めよう。(取材)
- ・集めた情報を分類したり結びつけたりして整理しよう。(選材)
- ・目的や意図、相手に応じて書く内容を選んだり、優先順位を決めたりしよう。(選材)

学習振り返りシート

組 番 ()

()

おどろき！！ねこの能力の高さ！

椎名 景子

「あなたは、犬とねこのどちらが好きですか。」—こんな質問をされたら、みなさんならどう答えますか。わたしは、ねこが好きです。しかし、わたしの周りには「犬の方が好き」と答える友達が多く、どうやら犬派の方が多いようです。わたしはみんなにもっとねこを好きになってもらいたいと思っています。そこで、実際に飼っていたねこの「ななちゃん」の驚きの能力を3つ紹介します。ねこのことを知れば知るほど、ねこのことが好きになるかもしれません。



1 セミ獲り名人

ねこは木登りが得意です。毎年、家の前の公園の木にはセミがたくさんとまっています。ななは木の幹にセミを見つけると、木の根元から狙いを定めて一気に駆け上り、セミを仕留めます。そして、セミを口に加え、「とったよ！」とばかりに得意気にわたしに見せにきます。わたしは網を使ってもセミを逃がしてしまうのに、ねこってすごい！



2 夏でもくさくない？！

ななは、外遊びから帰った後に足の裏を水拭きしますが、お風呂には入りません。しかし、全然くさくならず、いつもいいにおいがします。暑い夏でもくさくなりません。ななはいつも自分の体をペロペロなめて、毛並みをしっかりとそろえています。不思議に思い調べてみると、ねこの唾液には、消臭の役割をするような成分が入っているそうです。また、ねこが汗をかくのは、肉球と鼻の頭だけなので体全体はくさくならないのです。わたしは汗をかくとすぐ臭くなるので、ねこがうらやましいです。

3 「涼しさ」「暖かさ」をすぐ感知！

ななは季節によって、お気に入りの場所がちがいます。夏は玄関に入ってすぐの廊下に、冬はこたつの中にいます。こたつの中が暖かいことはすぐに分かりますが、不思議なのは、電源が付いているこたつの中には入らないということです。電源がついているとねこにとって暑すぎるのかもしれませんが。夏にいる場所は、私も同じ場所で過ごしてみたところ、いつも風の通り道になっていて涼しいということが分かりました。「ほんのり暖かい場所」と「家の中で一番涼しい場所」が分かるねこってかしこい！（今年の夏は暑すぎたので冷房の中で過ごしました。）



ねこのことが少しは分かってもらえたでしょうか。このように、ねこはかわいいだけでなく、驚くような様々な能力をもっています。今後ねこを見かけたら、ぜひじっくりと観察してみてください。ねこ好きの人が増えますように。

鉄道旅のみ力

葛飾区立南綾瀬小学校 5年1組 ○○ ○○ (児童作品)

みなさんは、鉄道旅をしたことがありますか。したことがない人の方が多いと思います。ぼくは鉄道旅が好きです。一人旅に出かけることもあります。ぼくが感じる鉄道旅のみ力を4つ紹介します。

(1) 鉄印帳と鉄印

第三セクター鉄道協議会に入っている鉄道会社と関係会社が連携して、地方鉄道の沿線をもり上げるために始められました。鉄印帳を購入して、各鉄道会社の指定窓口で乗車券を見せ、記帳料を払うと、各社オリジナルの「鉄印」がもらえます。鉄印は、手書きやスタンプ、プリントなど各社工夫をこらしたデザインです。近いところでは、千葉県のみすみ鉄道と、茨城県の鹿島臨海鉄道でできるので、興味がある人はぜひ鉄印の旅に行ってみてください。

(2) 発車メロディ

発車メロディとは、列車が発車することを知らせる音楽です。とてもきれいで、口ずさみたくなる曲が多いです。例えば、高田馬場駅は鉄腕アトムの曲です。桜木町駅では「線路は続くよ、どこまでも」が流れます。ぼくは、国分寺駅の「電車ごっこ」の発車メロディが特に好きです。旅をしながら、駅の発車メロディをよく聞いてみましょう。

(3) 電車の連結

連結とは、行先が同じだけ出発地点がちがうので途中で車両をくっつけることです。車両の端に取り付けられたフックに、もう片方の列車の端からの鎖を引っ掛け、ねじを締めてゆるみを取り、連結完了です。ぼくが特におすすめなのが東武鉄道です。なかなか見られない普通列車の連結が見られるからです。東武鉄道で連結が見られる駅はたくさんあるので、連結しているところに出合えるといいですね。

(4) レールのはば

線路のレールの幅は、すべて同じではありません。レールの幅が1435mmのものは「標準軌」と呼ばれています。1435mmよりも短いレールを「狭軌」と言います。日本の鉄道のレールの幅は1067mmで「狭軌」が使われています。新幹線には「標準軌」のレールが使われています。大井川鉄道のアプト式の線路がぼくのおすすめです。

どうでしたか。あなたも鉄道旅に行きたくなってきましたか。鉄道旅に興味がない人もぜひ一度鉄道旅に出かけてみてください。鉄道好きの人は、ぜひぼくと鉄道旅のみ力について語り合しましょう。「出発、しんこう（進行）！！」